

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

NO.1

嬉野市議会議員

諸上 栄大

実施月日	令和元年 8月26日(月)			
実施時間	14時00分～17時40分			
調査先	ロワジールホテル那覇及び、航空自衛隊那覇基地			
調査所在	ロワジールホテル那覇(那覇市西3-2-1) 航空自衛隊那覇基地(那覇市字当間301)			
調査の目的	第14回 九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会及び航空自衛隊那覇基地現地研修視察			
調査先担当者	九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会 会長 又吉清義氏(沖縄県議会)			
内容・結果等	【内容】 第14回 九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会 ①:役員就任について、会長に又吉清義氏、副会長に山川典二氏、幹事長に花城大輔氏、監事に山川典二氏(兼任)が就任された。②:会長挨拶及び、③:来賓の挨拶を経て、④:議案審議では、第1号議案として、平成30年度事業報告(案)及び、決算(案)が、また、第2号議案として令和元年度事業計画(案)及び、予算(案)に関して、原案のとおり可決された。⑤:大会決議を経て、⑥:時期開催県である、大分県の濱田洋会長より挨拶があり終了。 防衛講話 演題『南西諸島を取り巻く安全保障環境』 講師 航空自衛隊 南西方面隊司令官空将 鈴木康彦氏 西南地域の概況 西南地域は東アジアの中心であり、那覇市を中心に円を描くと、1500km圏内に香港やマニラ、ソウル、東京などが入る状況であり、広大な海域が広がる。その広大な海域は、東西に1000km南北400kmで、那覇市を東京の位置に置くと、東北から四国の一部まで入る広さである。沖縄県の状況として、沖縄県の面積2.281km ² で国土面積の0.6%を占め、全国44位の状況。人口においては、1,448千人(平成31年4月1日現在)で全国25位。合計特殊出生率は、1.86人と全国1位の状況であるとの事。最近では、中国海空軍の行動が拡大・増加しており、航空自衛隊のスクランブル発進の回数も増加し、航空自衛隊では、南西地域を守るために平成29年に南西航空混成団から現在の南西航空方面隊に昇格し、南西地域の防空に努めているとの事。			
	【まとめと感想】 協議会総会に関しては、原案通り可決され、次回の九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会開催地は、大分県に決定した。防衛講話では、講話の中で用いられた、大陸側から見た日本というスライドの説明を受けた。中国軍が軍事力を広域かつ、急速に強化し、さらに東シナ海や			
	上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
		旅費・宿泊費		51,370
		合計		51,370

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

NO.1

嬉野市議会議員

諸上 栄大

実施月日	令和元年 8月26日(月)		
実施時間	14時00分～17時40分		
調査先	ロワジールホテル那覇及び、航空自衛隊那覇基地		
調査所在	ロワジールホテル那覇(那覇市西3-2-1) 航空自衛隊那覇基地(那覇市字当間301)		
調査の目的	第14回 九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会及び航空自衛隊那覇基地現地研修視察		
調査先担当者	九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会 会長 又吉清義氏(沖縄県議会)		
内容・結果等	南シナ海をはじめとする海空域などにおいて、質量ともに活動を急速に活発化している現状を学ぶことが出来たと思う。また、沖縄本島をはじめとする西南諸島への空域における中国軍用機の活動が活発になってきており、領空侵犯などへのスクランブル発進の回数も、平成28年は1168回と過去最高との話を聞き、非常に驚いた。沖縄という場所は、国防上非常に重要な拠点だという事を、今回の研修に参加させて頂き、改めて実感した。		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	旅費・宿泊費		51,370
	合計		51,370

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

NO.2

嬉野市議会議員

諸上 栄大

実施月日	令和元年 8月27日(火)		
実施時間	9時45分～11時40分		
調査先	宜野湾市役所		
調査所在	宜野湾市野嵩一丁目1番地1号		
調査の目的	普天間基地の概要について		
調査先担当者	宜野湾市議会 東川上芳光事務局長、基地政策部基地涉外課 課長 吉村純氏 係長 崎原邦子氏		
内容・結果等	<p>【内容】 宜野湾市長の松川正則市長、宜野湾市議会の上地安之議長を表敬し、宜野湾市の概要及び米軍普天間基地の概要説明を受ける。宜野湾市は人口、98,726人(平成31年1月末)、市の面積が19.8km²の沖縄県本島中南部に位置し、南部と中部を結ぶ交通上の要所となっており、また、平坦な土地が少ない南部地域において大きな利用価値を秘める地域である。しかし、普天間飛行場が市の中心部に位置しているため、いびつな都市形成(ドーナツ状)をせざるを得ず市民生活はもとより、市財政に大きな影響を及ぼしている。また、普天間飛行場周辺には、学校や公共施設等が数多く存在し、市民は絶えず、墜落の危険性と騒音被害などの、基地被害にさらされている。私たちの記憶に新しいのが、平成29年12月13日に発生した、普天間第2小学校にCH-53Eのヘリの窓の落下事故があると思うが、本土復帰から、平成31年1月末までに、137件(年平均で2.9回)の普天間飛行場所属機の事故等が発生しており、騒音被害に関しても平成29年度の騒音発生回数が12,152回と住民に大きな負担となっている。普天間飛行場の面積は、475.9ha(東京ドーム約100個分)で、まちの中心部に位置し、市の面積の約4分の1を占めている。また、市の北側にある、キャンプ瑞慶覧の面積(約1,059km²)も含めると、市の面積の約30%が米軍施設に占められている状況。普天間飛行場には、常駐機として、オスプレイ24機、スーパースタリオン12機他、併せて58機が常駐しており、それ以外の外来機も飛来し、その回数も増加している状況であり、宜野湾市では昼夜を問わず、基地から発生する騒音などの苦情に対して、職員の勤務時間以外にも対応できるよう、留守番電話専用回線である「基地被害110番」を設置されている。その苦情件数に関しても、毎年、増加傾向で平成30年度1月末においては、550件で過去最高の件数であったとの事。普天間飛行場の所有形態、地主数等については、所有形態別面積の約90%が民有地であり、平成29年3月末で地主数が3,722人(うち市内在住者2,178人)で年間賃借料は平成28年度実績で、約74億4,800万円であるとの事だった。</p>		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	NO1に同じ		
	合計		

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

NO.2

嬉野市議会議員

諸上 栄大

実施月日	令和元年 8月27日(火)		
実施時間	9時45分～11時40分		
調査先	宜野湾市役所		
調査所在	宜野湾市野嵩1丁目1番地1号		
調査の目的	普天間基地の概要について		
調査先担当者	宜野湾市議会 東川上芳光事務局長、基地政策部基地涉外課 課長 吉村純氏 係長 崎原邦子氏		
内容・結果等	<p>【まとめと感想】</p> <p>実際に、宜野湾市役所の屋上から普天間飛行場が見えた。そこには、何機もの機体が常駐していた。</p> <p>また、実際の飛行ルート(発着陸)の説明を受けたところ、市街地の真上を通過する状況でもあり、市民の墜落事故に対する不安や騒音被害の大きさ等を実感した。返還合意がなされたものの、20年以上経過した今も、返還は実現されていない状況で非常に厳しい現状を痛感した。返還合意の原点は、危険性の除去及び基地負担の軽減であり、普天間飛行場の固定化は絶対にあってはならない、という市長の声とともに、この基地負担軽減についての取り組みは、沖縄だけの問題にせず、我々も真剣に考えなければならない事を考えさせられた。</p>		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	NO1に同じ		
	合計		

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

NO.3

嬉野市議会議員

諸上 栄大

実施月日	令和元年 8月27日(火)		
実施時間	14時00分～16時00分		
調査先	名護市 辺野古交流プラザ及び、キャンプシュワブ(辺野古埋め立て地 ゲート前)		
調査所在	名護市辺野古913番地10		
調査の目的	辺野古埋め立て問題について		
調査先担当者	名護市議会議員 宮城安秀氏		
内容・結果等	<p>沖縄県の基地の現状：沖縄県では、184.993km²を米軍の基地で占めている。全国の米軍専用施設区域の70.28%が沖縄県に集中している状況であり、沖縄本島の15.34%が基地施設面積であるとの事。沖縄の普天間基地の移設先として、名護市辺野古が日米間で決定している。</p> <p>名護市の状況：55区の地区に分かれており、人口約62,000人。そのうち、辺野古区は13区あり、約3,000人が生活されている地域である。名護市は、基地移設反対派の市長が当選し、地元住民が基地移設に対して反対している。との報道がなされている中で、実際の状況としては、辺野古地区住民は基地移設に対して、受け入れを容認されているとの事。沖縄県外の方等、沖縄の地理感覚がない方は、名護市全体で反対しているように思われるが、辺野古地区は名護市からは、山を隔てた東側にあり多くの住民が住む市街地の方は、正直なところあまり実感が無い場所との事だった。また、辺野古区住民は米軍が駐留したおかげで、人口の増等、区の発展があったと理解しており、運動会やハーリー大会などを通じて、交流も多く『よき隣人』として付き合っている認識が強いとの事。</p> <p>環境問題破壊という点において、希少生物のジュゴンの生息地としての話題に焦点が当たるが、長年漁業を営む地元住民でも、回遊している状況はあるが、生息しているのを見たことはないとの事であった。</p> <p>辺野古埋め立てゲート前視察：現状として、移設反対派の建屋が歩道上に並んでおり、そこに数人おられ、決まった時間ごと(工事トラックが基地内に入ってくる時間)に、埋め立て反対派(県外の方が多い状況)の方々が、プラカードを掲げ活動されていた。</p>		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	NO1に同じ		
	合計		

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

NO.3

嬉野市議会議員

諸上 栄大

実施月日	令和元年 8月27日(火)		
実施時間	14時00分～16時00分		
調査先	名護市 辺野古交流プラザ及び、キャンプシュワブ(辺野古埋め立て地 ゲート前)		
調査所在	名護市辺野古913番地10		
調査の目的	辺野古埋め立て問題について		
調査先担当者	名護市議会議員 宮城安秀氏		
内容・結果等	<p>【まとめと感想】</p> <p>ニュースでも大きく取り上げられる沖縄の基地問題。その中でも、辺野古埋め立て問題に関しては、今まで私自身、正直、真剣に考えていなかったことを反省した。新聞報道にあるよう大多数の方が、反対されているという考えだった。しかし、今回、宮城安秀氏から、今までの経過や、基地に対する考え方、また、米軍との付き合い方等の話を伺い、辺野古区として、基地移設受け入れを容認されている状況が理解できたとともに、日ごろ、自分たちが見聞きしているニュースや報道が、現地の状況とは乖離があることを感じた。実際に現地を視察し、当事者から話を拝聴することで、問題を多角的に捉える視点が重要であることを実感した。</p>		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	NO1に同じ		
	合計		